

(怪つ態な事云ふない。撲くいても堪たえん奴やつやさかい仕様が無い。サア何なと云ふて來んかい)……(何が宜よろえやろ、お少ちよ婢ひやんに蒲鉾ちま買かひに遣つかるか、それ共海苔のり買かふて炙あろうか)……(勘かん忍にんして呉くれれ、講こう詣ぎりの朝飯あさめしや有あるまいし、蒲鉾ちまや焼海苔のりで酒さけが飲のめるかい。鰻うなぎの蒲焼のりでも云いふて來こい、お婆おばあはんにも一人前ひとまへ取とつといたれ、序ついでに居ゐる丈だけの妓女こどもにズまとままひましまでも配くわつたれ)……(まア吉きちやん、なんでそない無理無理ばかり云いふのやいな。今夜このよの泊とどりをどない仕して拂はふたか知しつてる癖くせに)……(愁しゅう嘆たんな顔かほして呉くれれな。サア是これれで按配あひびしとけ)……ちちううて、懐なつかしから財布さいふをポポンと放はなり出でしたるね。財布さいふの中なかと俺おれの顔かほをジジイと七分三分七分三分に見競けんべやがつてナ。……(まア此この人ひと云いふたら見みんか。こない仰山おんざんお金かね持もつて癖くせをジジイと七分三分七分三分に見競けんべやがつてナ。……憎にくたらしいなア本真ほんしんに)……咳せきいてる物の矢やつ張り嬉うれし相あにして降りて往いきよる、暫しばらくすると膳ぜんの上うへへ二鉢にひつ程ほどの肴さかなと、銚子しやうし一本いっぴん乗のせて上うて來こるなり、俺おれの顔かほを睨にらみよる……(何なにやいな豪ごうら相あな恰た好こうして。鳥渡とりわたり手を延のびしてお膳位ぜんゐ受け取とりて呉くれれたら何なにふや)……(へん天竺てんじく猿ざるやあるまいし、そんな處ところまで手てが届とくかい。此方こなたへ持もつて來こい)……(まア此人ここのひと云いふたら、女房にようぼうを使つかはにや損この様ようにしてるねワ。サアお飲のり)……(オイ來こた。何なにぢや此看ここのかんは)……(鰻うなぎ屋やはモウ仕舞しまいひや云いふ依よて、玉水たまみづへ遣つかつたんやけど玉水たまみづも山入やまいれた處ところで何も出で來こへんネ。煮賣屋にうりやの物ものやけど是これで今夜このよだけ辛抱しんぱうしといとう)……(ほほ、ウ。豪ごうい物もの持もて來こよつたナ。何なにや鰻うなぎの煎付いりつけに昆布こんぶ卷まかこつちが慈姑じこか、こら結構けいこうや)……(鳥渡とりわたりまア貴方あなた、其慈姑じこ喰くるのんか)……(食くふて悪い物わるいものなら何なにで持も

て來こたんや)……(頼たのむさかい夫おとこれ丈だけ食くべんと置おいとふ)……(俺おれは是これが大好きだいじやうや)……(それでも慈姑じこは男おとこの精せいを落おすと云いふや無ないか)……(俺おれ見みたいな隙ひまま筋ぢんは、慈姑じこなど喰くはな仕し様が無ない哩や)……(まア何なにふ云いや斯かふ云いふと、能ようそない無理無理が云いえた物ものや。アアツ喰くべたら可いかん云いふのに。吉きちやん云いふたら。キヤア。喰くべたら嫌きらやアア)……フフワワイイ……ア、往いき度どいなア……貴兄あなた。中兄なかつ……一遍いっぺん起たきて俺おれの惚氣ほげも聽きて呉くれれ。オイ兄貴あにさま、オイ、オイ……『蒲團ふとんを捲まくと藻拔もはの殻か『アツ居ゐよれへん……オイ中兄なかつ、慥たしかかり仕しんかいナ、兄貴あにさまは居ゐやへんがナ』搖ゆり起たさうと思おもふたら是これも空くうつぽでやす。ア、ツ。二人ふたり共居ともやがれへん』不圖ふと氣きが附ついて見みると、物干ものひの戸かどが少すくし開あいて、薄明うすあかりりがさして居ゐます。ウウム此處こゝから出でやがつたのやナ』其儘そのま着物ぎよぎよを引掛ひけて、屋根やねへ出でるなり、今度このたびはエエヘンも糞くそもおまへん。裸足はだかあしで往來わらいへ飛とび降おりるなり新町しんまちへ走はって仕舞しまいひました、夜よがガラリと明あけますと上の作次郎さくじらうさん九軒くけんから出でて通り筋ぢんをブラブラ／＼戻かへり参まゐりますと、塀へいの側わきの角かくで、中の彦三郎ひこさぶらうさんとベツタリ『オ、兄あにさん』『イヨウ中坊なかつんかいナ。何なにないして出でて來こたんや』貴方あなたが市助いちすけに梯子はし掛かけさして小使こししてなはる間に先まへ降おりましたんや』無茶むちゃするなア。小坊こぼうんは何なにふしたやろ』能よふ寝ねてました』アハハ。歸かへたら怒おこりよるやろ』話わをし乍さら新町橋しんまちばしを渡わたらふとすると背後うしろから『オイ兄貴あにさま。オイ中兄なかつ。』『アツ小坊こぼうんや無ないか』『オイ、腹はらの悪い事ことすない。二人ふたり腹合はらあして、俺おれ一人ひとり放はなつたらかしやがつて』『イヤ怒おこりな、左様さやうや無ないネ。二人ふたり共別とも々々に出でたんや。まア兎うに角かく一處いちとに歸かへろ……親父おやつあんが店みせに居ゐにや良よえがナ